九十九川沿岸遺跡群 2

――平成２年度県営圃場整備事業九十九川
地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書――

１９９２

群馬県安中市教育委員会

九十九川沿岸遺跡群 2

――平成 2 年度県営圃場整備事業九十九川
地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書――

九十九川沿岸遺跡群２　　正誤表

頁	行	誤	正
Ｐ．２	２行	遺構構図面	遺構図面
Ｐ．２	15行	反乱	氾濫
Ｐ．８	22行	反乱	氾濫
Ｐ．８	25行	反乱	氾濫

序

安中市は、群馬県西毛地域のほぼ中心、浅間山、妙義山の裾野に位置します。市の中央には、西から東へ碓氷川が流れ、北から九十九川が合流しています。これらの川に沿って緑豊かな田園風景が広がっています。今回発掘調査を行った九十九川地区は、この九十九川に北側から合流している後閑川との合流地点及びその下流約1.5kmの九十九川左岸地帯です。

今回の調査では、九十九川沿岸地区遺跡群のうち、深町遺跡、広川遺跡の２遺跡が確認でき、調査しました。これらの遺跡では浅間のＢ軽石（1108年）下の水田と、溝が確認できました。

発掘調査は、このような遺跡の様子を後世の人々に伝えてゆくために記録保存の措置を講ずるものです。

こうした埋蔵文化財は、かけがえのない郷土の遺産であります。今後とも、市民の皆様にも郷土の歴史に接していただけるよう、社会教育、学校教育の場で広く活用を図り、文化財愛護の精神の普及に努めてゆく所存であります。

終わりに、発掘調査に御協力していただいた地元の皆様や、調査に従事していただいた大勢の方々にはこの場をかり厚く御礼を申し上げたいと存じます。

平成４年３月

安中市教育委員会
教育長　山　中　誠　次

例　　言

1　本書は高崎市土地改良事務所が実施した平成２年度県営圃場整備事業九十九川地区の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　平成２年に調査を実施した遺跡は、深町遺跡（略称Ａ－３）、広川遺跡（略称Ａ－４）、である。

3　発掘調査及び遺物整理は平成２年度・平成３年度文化財保存国庫補助金、県費補助金により実施した。

4　発掘調査は平成２年度に実施し、遺物整理は平成２年度と平成３年度に実施した。

5　発掘調査は安中市教育委員会社会教育課文化財係主事千田茂雄が行った。

6　発掘調査組織

安中市教育委員会事務局

社会教育部長	上原満雄（平成３年４月退職）
	渋谷　栄
社会教育課長	中島茂弥（平成３年４月転出）
	多胡泰宏
文化財係長	森泉寿義雄（平成３年４月転出）
	吉田　洋（平成３年８月退職）
主　査	山中けい子
主　事	大工原豊
主　事	千田茂雄（担当）
主　事	小黒勝明

7　本書の編集、執筆は千田が行った。なお、付編「深町遺跡、広川遺跡におけるプラントオパール分析」は（有）古環境研究所に委託した。

8　遺構の写真撮影は千田が行い、航空写真は（有）青高館に委託して行った。

9　遺構の実測及びトレース作成は、千田茂雄、下マスエ、金井武司、和田宏子、氏家芳子、古立真理子が行った。

10　調査区の国家座標取付及び、測量基準杭の設置は（株）大成測量に委託して実施した。

11　今回の調査における記録、出土遺物は安中市教育委員会が保管している。

12　調査に当たり地元の方々に様々な面で御協力いただきました。厚くお礼申し上げます。

13　発掘調査及び遺物整理従事者は次のとおりである。（敬称略）

井坂ふさ江　稲塚しづ江　氏家芳子　金井武司　小林かず子　小林ケサオ　佐藤　健　佐藤琴子　下マスエ　神宮幸四郎　神宮秀岳　鈴木八郎　反町　徹　武井きよ子　武井通子　田島一雄　田中久子　戸塚大志郎　長岡政江　原田せつ子　古立真理子　松原鬼長　矢野久雄　山田一夫　山田和弘　吉沢道子　和田宏子

凡　　例

1　広川遺跡全体図の縮尺は１／160である。

2　土層説明中での記号、略称は次の通りである。

色調＜：より明るい方向を示す（例１＜２：１より２の方が明るい）

しまり、粘性　◎：あり、○：ややあり、△：あまりない、×：なし

混入物　◎：大量、○：多量、△：少量、＊：若干、×：なし、

As－A：浅間A軽石、As－B：浅間B軽石、鉄分：鉄分の沈着

本文目次

序
例　　言
凡　　例
本文目次
挿図目次
表 目 次
図版目次
Ⅰ　調査に至る経過 …… 1
Ⅱ　調査の方法と経過 …… 1
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境…… 2
Ⅳ　層　　序…… 7
Ⅴ　遺跡各説…… 8
1　深町遺跡…… 8
(1)　遺跡の概要…… 8
2　広川遺跡…… 8
(1)　遺跡の概要…… 8
(2)　検出された遺構…… 9
Ⅵ　まとめ ……11
付編　安中市、九十九川沿岸遺跡群におけるプラントオパール分析……15

挿図目次

第１図　九十九川沿岸遺跡群位置図…… 3
第２図　遺跡位置図…… 4
第３図　深町遺跡調査区設定図…… 5
第４図　広川遺跡調査区設定図…… 6
第５図　基本層序柱状図…… 7
第６図　広川遺跡全体図……10

付　　編
第１図　試料採取地点……17
第２図　試料採取地点……17

表 目 次

付　　編
第１表　プラント・オパール分析結果

図版目次

図版１　広川遺跡全景（東から西）　広川遺跡全景（西から東）　広川遺跡土層堆積状況
図版２　広川遺跡土層堆積状況　Ｂ区トレンチ掘削状況　Ｂ区トレンチ掘削状況
図版３　深町遺跡トレンチ掘削状況
作業風景

付　　編
図版１　プラント・オパールの顕微鏡写真

I　調査に至る経過

昭和63年１月高崎土地改良事務所より、県営圃場整備事業九十九川地区に係る埋蔵文化財の取扱に関する協議を行いたいとの申し出が、安中市教育委員会にあった。該当地域は現在も水田耕作を行っている場所であり、平安時代の水田跡が存在する可能性の高い場所であるため、その旨を高崎土地改良事務所に伝達した。その後高崎土地改良事務所と市教育委員会の間で再三にわたり文化財保護のための協議を行った。

しかし、土地改良事業は地域の農業振興にとって不可欠であること、地元地権者の要望も大きいことから、事業を実施することが決定した。そのため、安中市教育委員会では、事業実施により埋蔵文化財に影響を受ける部分について、発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることになった。平成元年度につづいて２年目の調査となった。

II　調査の方法と経過

まず平成２年度の土地改良事業実施区域は大きく２カ所に分かれるため西側をＡ区、東側をＢ区とし、Ａ区、Ｂ区共に調査区全体の範囲に100ｍ×100ｍの大グリッドと、４ｍ×４ｍの小グリッドを併用してグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西隅を基点として北から南へアルファベットでＡ、Ｂ、Ｃ…Ｙ、西から東へ算用数字で１、２、３…と４進法（ｍ）で呼ぶことにした。そして、南北方向はアルファベットの先頭に１、２、３…と算用数字を付けて、100ｍでアルファベットが一巡するようにし、Ａのラインを大グリッドのラインとした。また、東西方向は25n＋１（ｎ＝０、１、２、３）のラインを大グリッドのラインとした。

グリッドの方向は調査の効率化を計るため、Ａ区、Ｂ区共に土地改良事業の道路予定線に直行するようにした。

なお、Ａ区は平成元年度のＢ区の続きになるため、Ｂ区の続きのグリツドを使用した。

そして、座標値は国家座標に取り付けた。Ｂ区３Ａ－１はＸ＝36798.031、Ｙ＝－87355.626である。

発掘調査は道路水路部分に沿って実施し、遺構が確認された部分で切り土等で遺構に影響を及ぼす恐れのある部分については、拡張して調査を行った。

発掘作業はまず、調査ライン測量を行い、ラインに沿いバックホーにより試掘を行い、遺構の確認できた部分を拡張して表土掘削、遺構確認、遺構精査、遺構写真撮影、遺構平面図、土層堆

積図作成の順で行った。

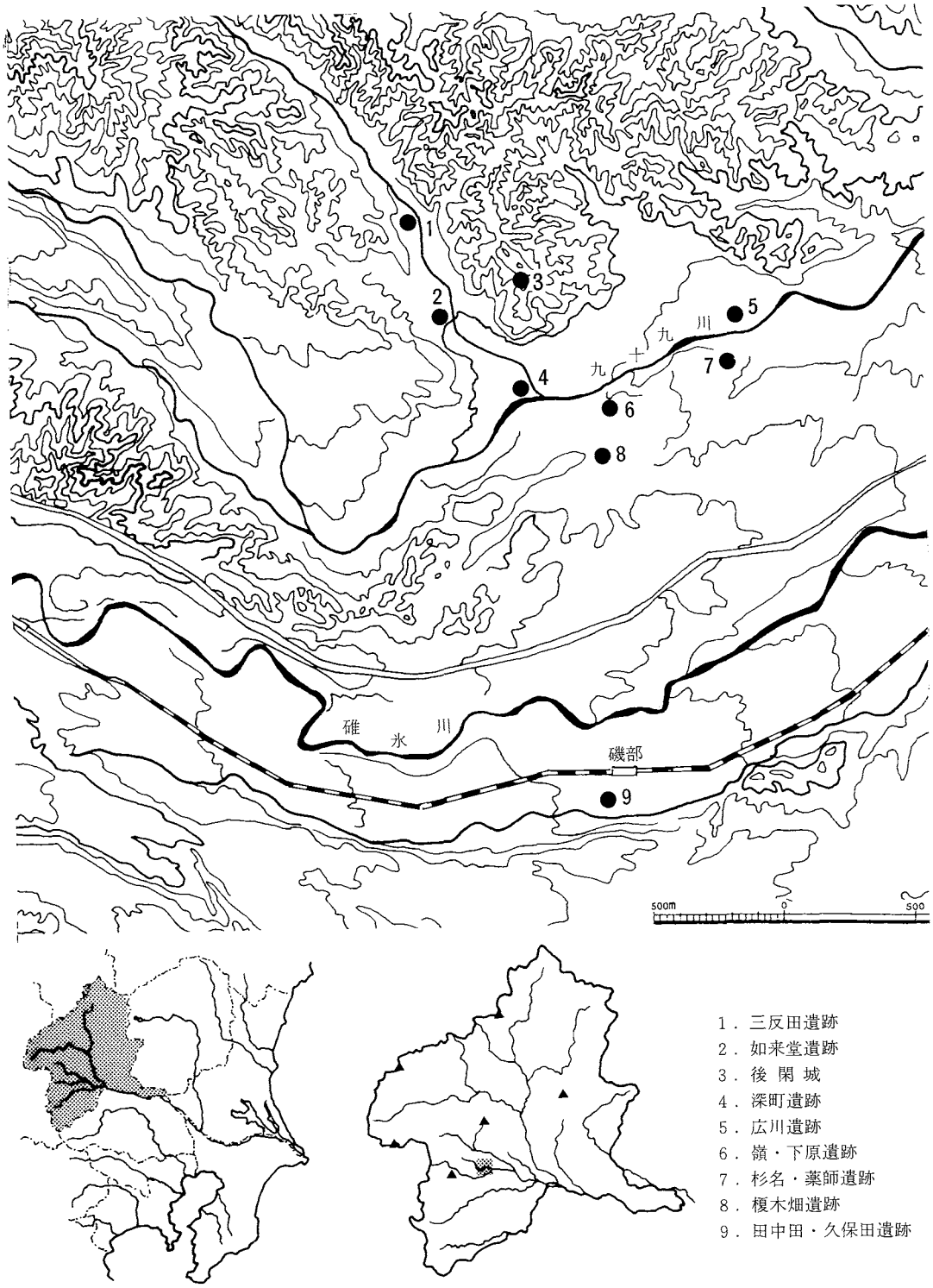
整理作業は、遺構構図面の整理・素図作成、トレース、各種台帳作成、写真整理を行った。

発掘調査は平成２年７月10日から平成２年12月26日まで実施した。また、整理作業は平成２年11月12日から平成３年３月20日までの間と、平成３年12月２日から平成４年３月20日までの間断続的に実施した。

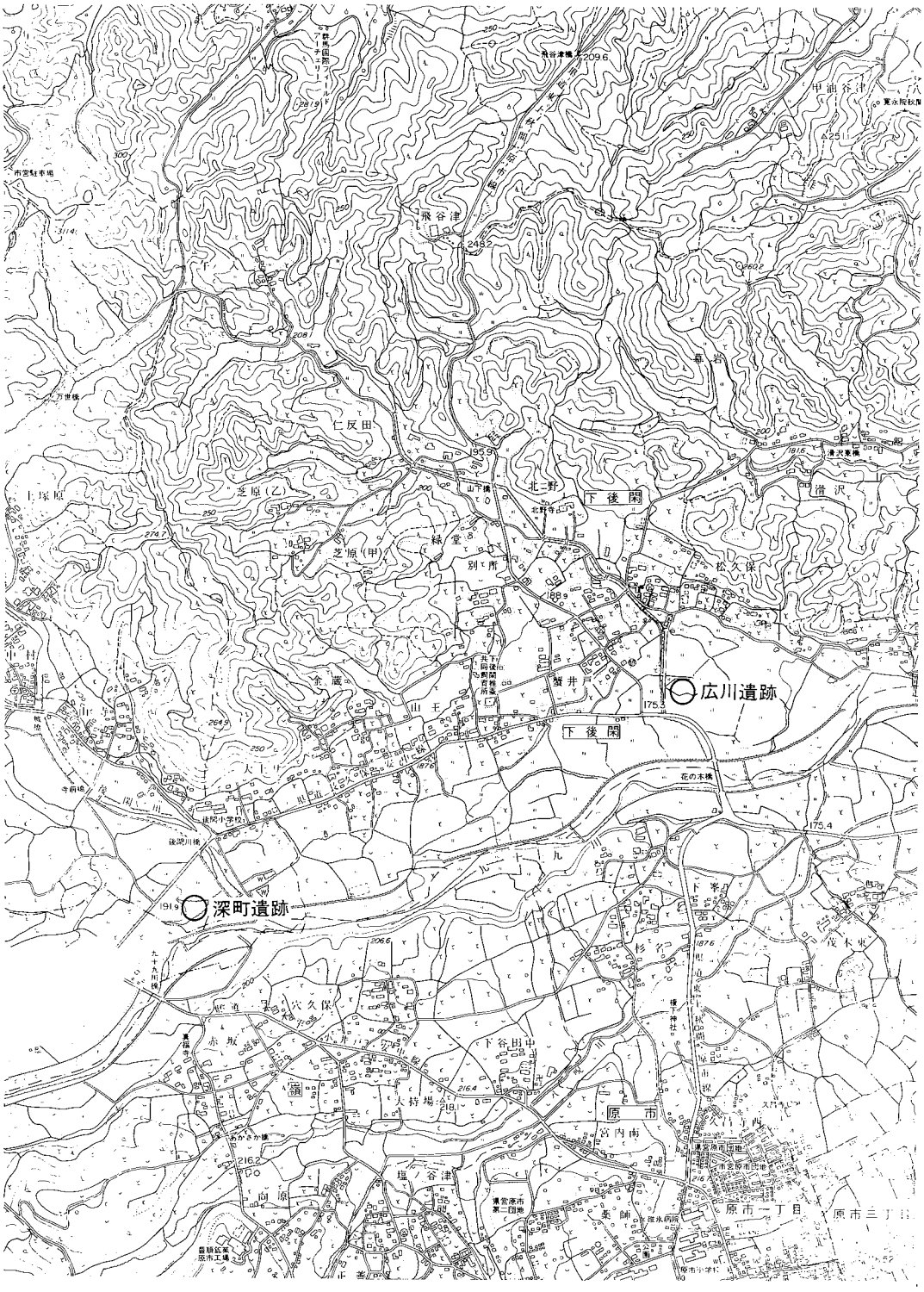
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境

九十九川沿岸遺跡群は群馬県安中市の上後閑、中後閑、下後閑を流れる九十九川及び後閑川流域に存在する。九十九川は、群馬県松井田町細野の仙ヶ滝に源を発し、安中、松井田の行政区分付近で松井田町上増田より流れる増田川と合流し、安中に入り碓氷川と平行して流れ安中市中宿付近で碓氷川と合流する。後閑川は松井田町との行政区分近くの上後閑柿平に源を発し、中後閑で九十九川に合流する。九十九川、後閑川流域は現在も水田耕作が盛んな地域である。また、両河川共に、最近までかなりの反乱河川であったようである。今回調査を実施した深町遺跡、広川遺跡は、この後閑川と九十九川の合流地点から下流域に存在する。

次に周辺の遺跡を概観すると、同じ平安時代のＢ軽石下の水田遺構としては平成元年度圃場整備対象地域内の三反田遺跡、如来堂遺跡がある。この他、安中市において水田遺構が確認されている遺跡として磯部の田中田・久保田遺跡（９）がある。平安時代のＢ軽石下の水田で、馬の足跡が確認されている。また、後閑川の九十九川との合流地点右岸の丘陵に後閑城址（３）が存在する。この後閑城は梯郭式を基調とする山城で、嘉吉、文安の頃（1445年頃）信州の依田内匠頭忠政により築城された。その後、北条政時、新田景純と城主が変わり、天正10年、武田滅亡後、松井田城代津田勝正によって落城、天正18年、北条氏滅亡と同時に廃城となった。この他、九十九川右岸の崖線上、八咫川とにはさまれた丘陵上には榎木畑遺跡（８）が存在する。この遺跡は縄文時代前期から中期及び、平安時代の集落遺跡である。また、この八咫川と九十九川が合流する手前の舌状台地先端部には杉名薬師遺跡（７）がある。この遺跡は弥生時代、古墳時代の集落遺跡で、弥生時代の住居は全てが大形の住居址で、古墳時代の住居址はそのほとんどが火災住居という興味深い遺跡である。そしてこの遺跡から西約１kmの所に嶺・下原遺跡（６）がある。この遺跡は古墳時代～平安時代にかけての集落遺跡である。（第１図）

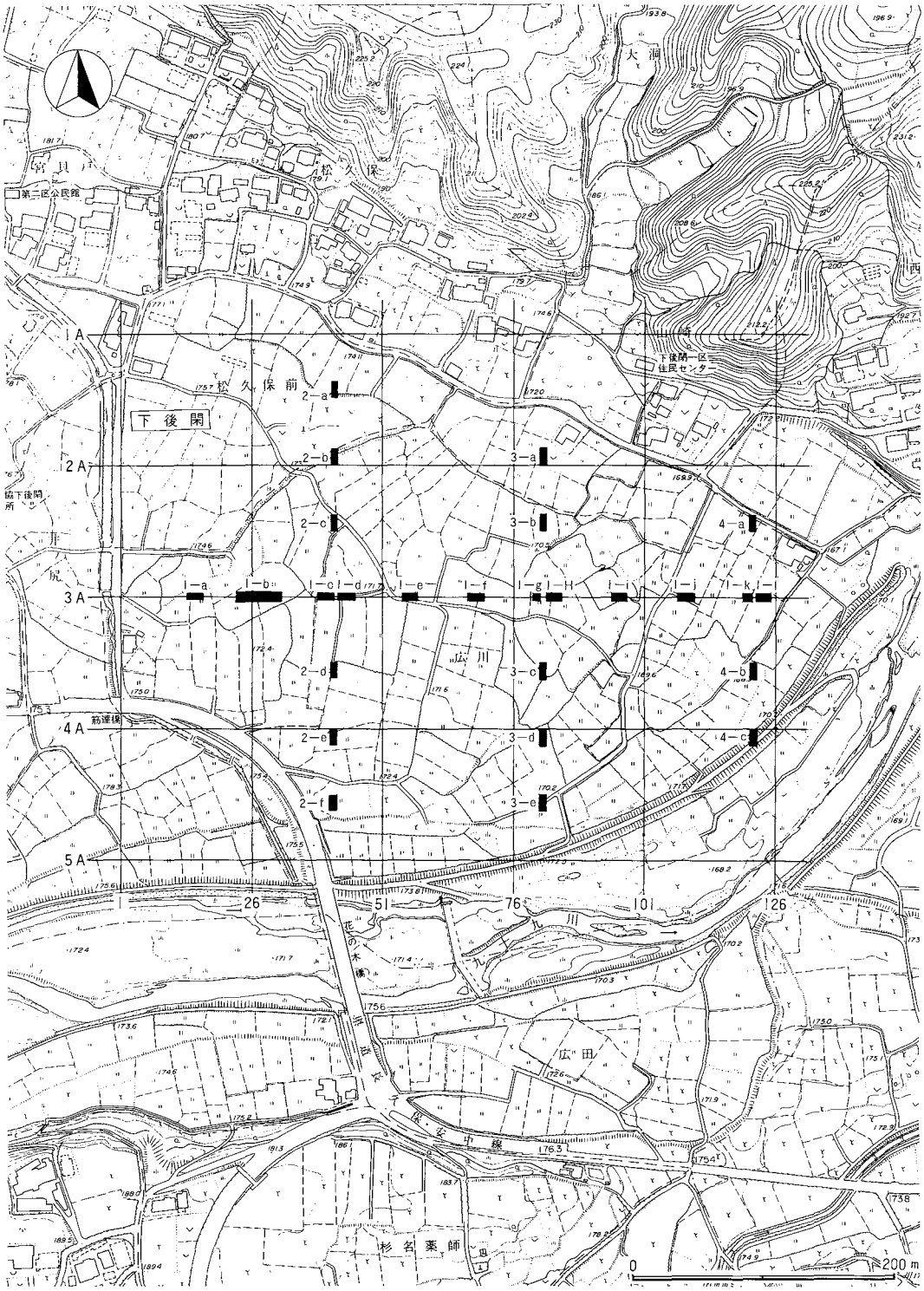


第１図　九十九川沿岸遺跡群位置図



第２図　遺跡位置図（１：20,000）

第３図　深町遺跡調査区設定図



第4図　広川遺跡調査区設定図

Ⅳ　層　　序

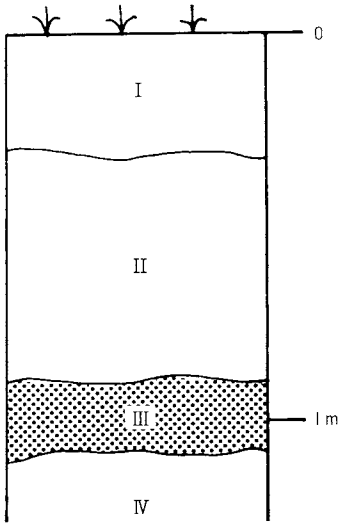
深町遺跡、広川遺跡の基本層序は第５図のとおりである。今回の遺跡は低地の水田遺構のため、安中市内の他の丘陵上の遺跡と層序は合致しない。以下に各層の特徴について述べることにする。

Ⅰ層　黒褐色土層　　浅間Ａ軽石を多量に混入する。現在の水田耕作土。鉄分の沈着が多量あり、しまり、粘性は共に強い。

Ⅱ層　暗灰褐色土層　浅間Ａ軽石を多量に混入する。現在の耕作土に比べ灰色が強い、鉄分の沈着が多量にある水田土壌で、しまり、粘性共にある。

Ⅲ層　灰褐色軽石層　浅間Ｂ軽石（As－Ｂ：1108年）の純層。

Ⅳ層　暗灰褐色土層　遺構確認面、鉄分の沈着が多く、しまり、粘性共にある。



第５図　基本層序柱状図

V　遺　跡　各　説

1　深町遺跡

(1)　遺跡の概要（第３図）

今回の調査区内のＡ区が深町遺跡である。道水路予定部分にトレンチを入れて確認を行ったが、遺構の確認はできなかった。しかし浅間Ｂ軽石が部分的に確認できるため、プラント・オパール分析をおこない、浅間Ｂ軽石下の水田の有無を確認する事にした。

分析の結果、遺構の確認できなかったこれらのトレンチについても、浅間Ｂ軽石下において水田耕作の可能性を示す良好な結果（詳細は付編参照）が得られた。その他のトレンチについては、水害により土壌が流されてしまっていて遺構はもちろん、浅間Ｂ軽石も確認できなかった。

2　広川遺跡

(1)　遺跡の概要（第４図）

本遺跡からは、浅間Ｂ軽石下の水田址が検出された。Ｂ区全体にトレンチを入れて遺構確認を行ったが、遺構が確実に確認できたのは１－ｂトレンチのみで、他のトレンチから確実な遺構は確認できなかった。１－ｂトレンチで遺構が確認されたため、この部分を拡張して調査を行った。

Ｂ区は、南側に九十九川が流れており地元の古老の話では、ごく最近まで川の反乱があったと言うことで、かなり広い範囲にわたり水害により土が流されてしまっている。そのため遺構の確認はむずかしかったが、１－ｂトレンチはＢ区の中でも一段高い部分のため遺構が残ったものと思われる。この部分の覆土を確認すると川の反乱によって水を被っているが、土が流されるほどではなく、反乱による堆積土が確認できる。そのため、遺構の遺存状態は非常に良好であった。

しかし、遺構面が水を含んでいて遺構の遺存状態は良かったものの、遺構面の細かい部分の確認は困難であった。

この他、他のトレンチについては、耕作土の下がすぐに礫層になつてしまい浅間Ｂ軽石の確認ができず、遺構の確認は不可能であった。

遺物は、全く検出されなかった。

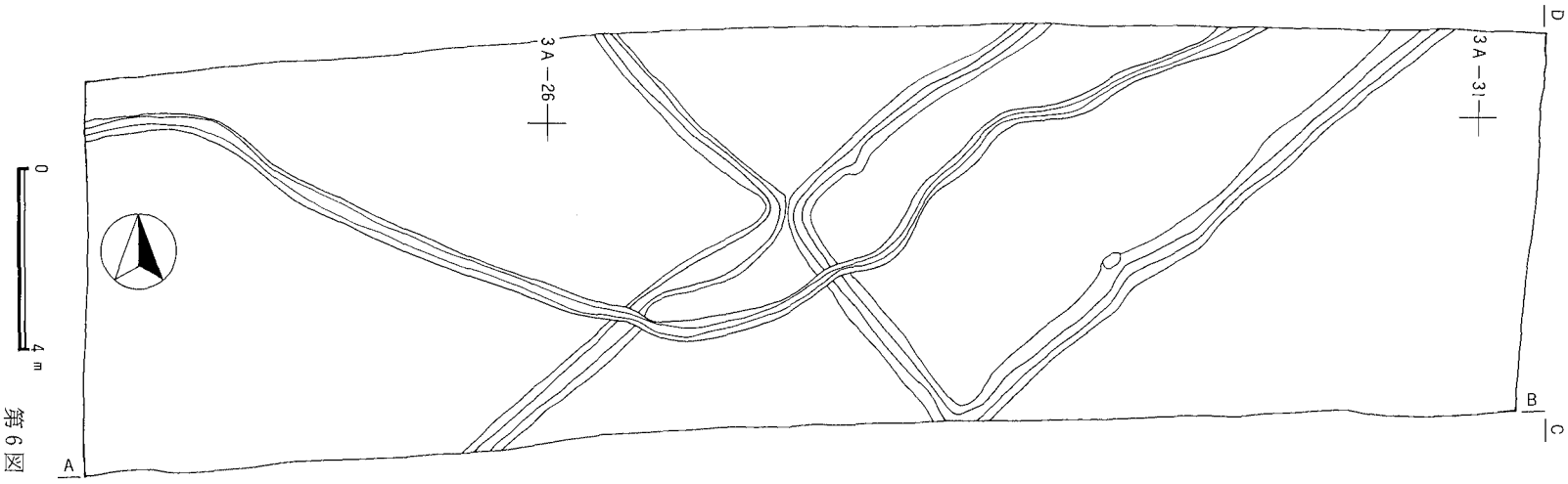
(2) 検出された遺構（第６図）

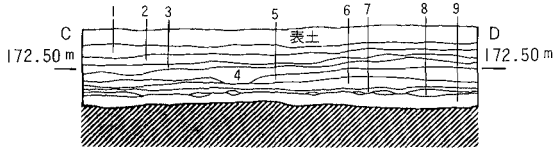
水 田 跡

１－ｂトレンチより確認された水田跡は、土層の堆積状態を見ると、約20～30cmの厚さで浅間Ｂ軽石、さらにその上を厚く浅間Ｂ軽石混じりの砂層に覆われているため、遺構の遺存状態は非常に良好であった。しかし上記したように遺構面が水を含んでいたため、遺構面の細かい部分の確認は困難であった。

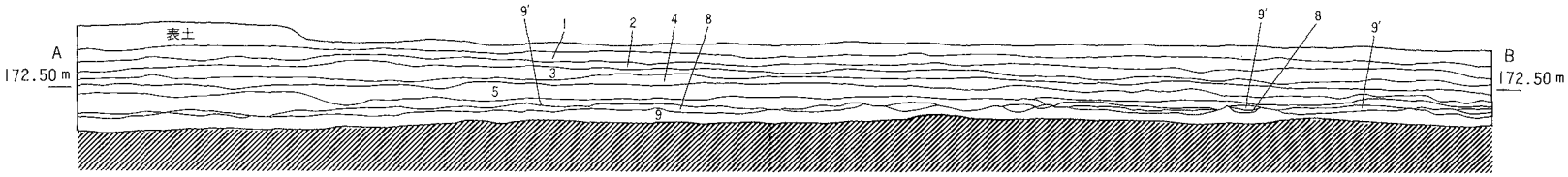
水田の平面形は長方形で、調査区の面積が少ないため水田に一定の規格制の有無は、確認できなかった。次に水田を区画する畦であるが、多少土圧等によりつぶれた部分がみられるものの、しっかりした形で確認できた。また水口もはっきりと確認できた。この他、水田面には幅約60cm、深さ約10cmで、畦を切り水田を横切るように１条の水路が確認できた。水路の覆土は浅間Ｂ軽石の純層で、水田と同時期の遺構と考えられる。

次に水田面の状態は、鉄分の沈着した典型的な水田土壌で、プラント・オパール分析でも、稲のプラント・オパールが高密度に検出された。また、遺構面の細かい部分の確認は困難であったものの、水田面には小さな凹凸と、人間の足跡と思われる凹が２～３確認できた。

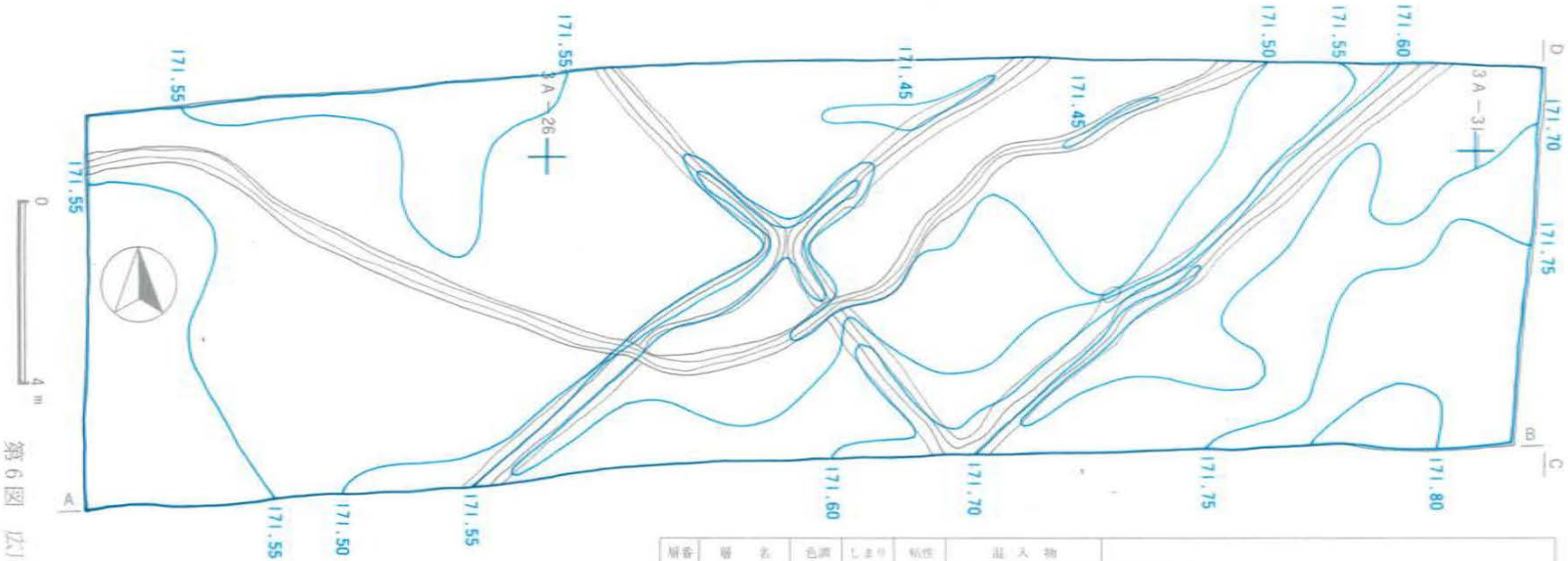


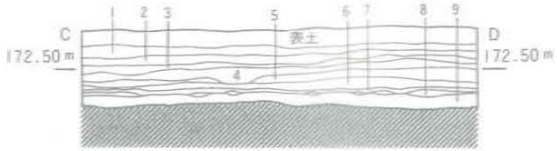


層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
1	暗黄褐色土層		○	○	A軽石、少	鉄分沈着	
2	暗褐色土層		○	○	〃（1より多い）		
3	暗黄褐色土層	1＜3	○	○	〃	鉄分沈着	
4	暗褐色土層	2＜3	○	○	〃 B軽石△	〃	及びブロック状に入る
5	暗褐色土層	4＞5	○	○	B軽石 △	〃	所々に細かい砂の層が入る（何日か川の水をかぶっている様子）
6	暗褐色土層	5＜6	○	○	B軽石 ○	〃	
7	暗褐色土層	6＞7	○	○	B軽石 ○	〃	6に比べBの粒子が白くなく黒い
8	褐色土層		○	○	B軽石		所々にBを余り含まない土壌化した層が入る。西へ行くと層と層にはさまれた状態になっているため、浅間の噴火が一時止まった時のものか
9	B軽石						
9	黒褐色軽石層		△	×	B軽石 ◎		

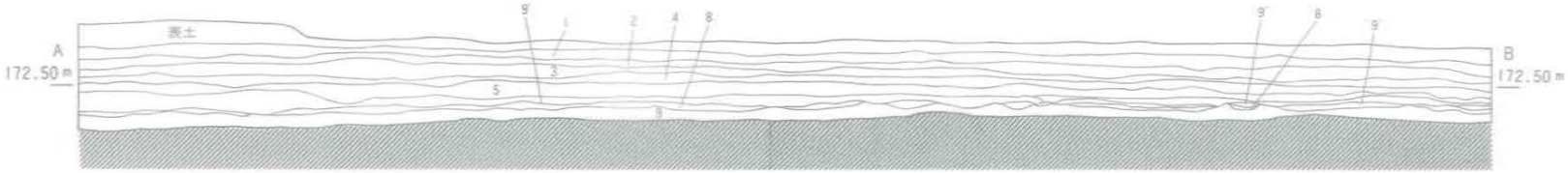


第6図　広川遺跡全体図





層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
1	暗黄褐色土層		○	○	A軽石、少	鉄分沈着	
2	暗褐色土層		○	○	〃（1より多い）		
3	暗黄褐色土層	1＜3	○	○	〃	鉄分沈着	
4	暗褐色土層	2＜3	○	○	〃B軽石△	〃	及びブロック北に入る〃
5	暗褐色土層	4＞5	○	○	B軽石 △	〃	所々に細かい砂の層が入る（何日か川の水をかぶっている様子）
6	暗褐色土層	5＜6	○	○	B軽石 ○	〃	
7	暗褐色土層	6＞7	○	○	B軽石 ○	〃	6に比べBの粒子が白くなく黒い
8	褐色土層		○	○	B軽石		所々にBを全く含まない土壌化した層が入る。西へ行くと層上層にはさまれた状態になっているため、浅間の噴火が一時止まった時のもの
9	B軽石						
9'	黒褐色軽石層		△	〃	B軽石 ◎		

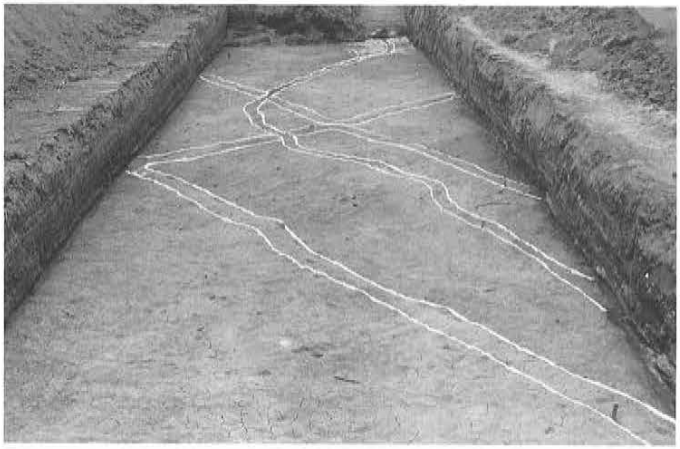


第6図　広川遺跡全体図

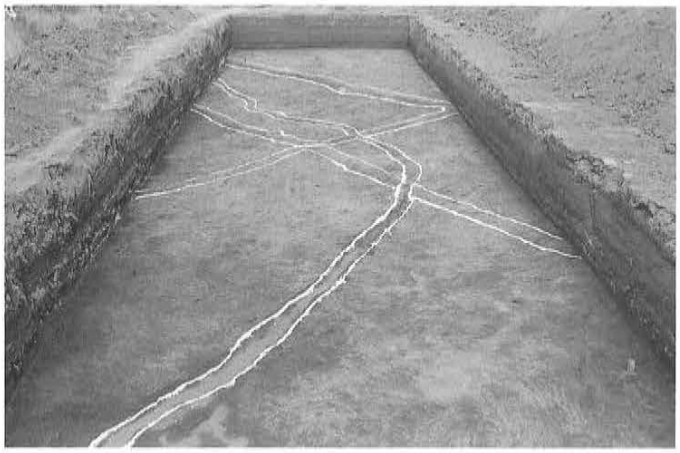
Ⅵ　ま　と　め

平成２年度の調査地区からは、遺構として確実に確認されたのは１カ所のみであった。平成元年度の調査区内からは浅間Ｂ軽石下水田及び水田面に馬、かもしか、人間の足跡が明瞭に確認でき、九十九川沿岸遺跡群１の報告書中で、水田面の状態から浅間Ｂ軽石降下の季節について触れたが、今回の調査区内からは、このことに関する資料は得られなかった。その原因の１つとして発掘調査実施の季節に大きな問題があると思われる。今回遺構の確認された部分は夏期施工の部分のため調査は７月頃のちょうど水の多い時期で、水路には水があふれんばかりに流れ、すぐとなりの秋期施工の田圃には稲が植えられ水がたたえられている。そんな状況の中、試掘を入れようとバックホーで掘削したとたんに現耕作土の下からどっと水が湧き、トレンチの中に差し込むと言う具合であった。遺構確認のできた部分についても、水は湧かないものの遺構面が非常に水を含んでおり、バックホーでの掘削を浅間Ｂ軽石純層の上面で止め、約20～30cmのＢ軽石を人力により除去しても、Ｂ軽石の上面に乗った時点でその下の遺構面に影響がおよんでしまうほどであった。そのため、Ｂ軽石を乗せたまま乾燥させようとしたところ、Ｂ軽石がスポンジの役目をしてしまい、水を含みいつまでも乾燥しないと言う状態になってしまった。しかたなく、細心の注意を払いＢ軽石を除去し、それから遺構面を乾燥させ精査を行ったが、Ｂ軽石の除去の時点で遺構面にかなりの影響がおよび、精査時点では水田面の細かい状況を確認する事が不可能であった。この点について今後調査時にどう対処するか、水田面の状態が良好に残っていたとしても、このような状況下においてどう対処するか、今後の水田調査時の課題として取り組んで行きたいと思う。

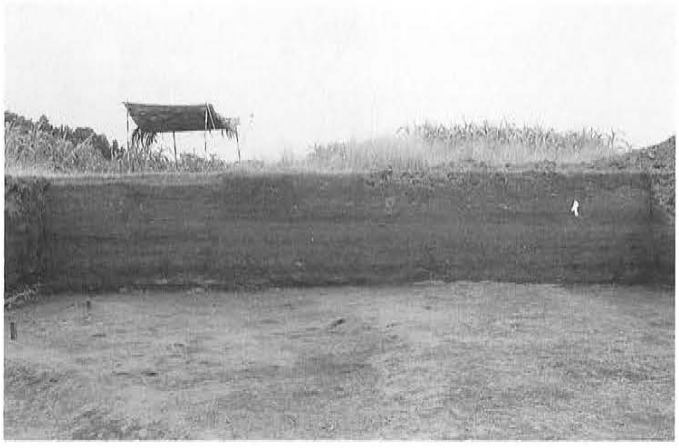
図版－1



広川遺跡全景（東から西）



広川遺跡全景（西から東）



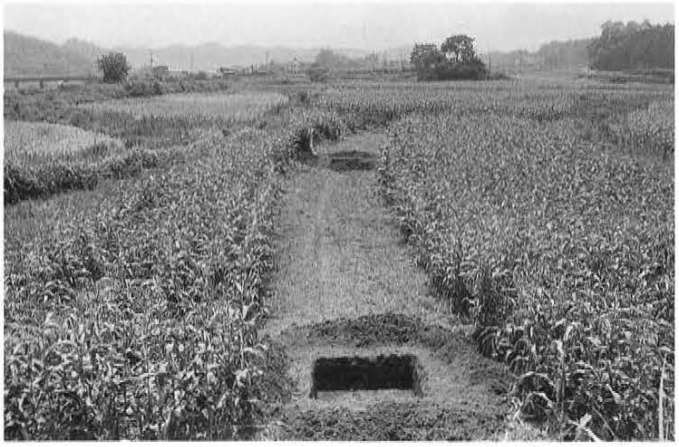
広川遺跡土層堆積状況

広川遺跡土層堆積状況

B区トレンチ掘削状況

B区トレンチ掘削状況

図版－3



深町遺跡トレンチ掘削状況

作業風景

付　編

安中市、九十九川沿岸遺跡群におけるプラント・オパール分析

古環境研究所

1．はじめに

この調査は、プラント・オパール分析を用いて、九十九川沿岸遺跡群の浅間Ｂテフラ（As—B）直下層における稲作跡の検証および探査を試みたものである。

2．試　料

試料は、遺跡の調査担当者によってフィルムケースを用いて採取されたものである。図１に、分析試料の採取地点を示す。なお、これらの試料はいずれも As—B 層直下の遺構検出面から採取されたものである。

3．分 析 法

プラント・オパールの抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法（藤原，1976)」をもとに、次の手順で行った。

(1) 試料土の絶乾（105°C・24時間)，仮比重測定

(2) 試料土約１ｇを秤量，ガラスビーズ添加（直径約40μm，約0.02ｇ）

　※電子分析天秤により１万分の１ｇの精度で秤量

(3) 電気炉灰化法による脱有機物処理

(4) 超音波による分散（300W・42KHz・10分間）

(5) 沈底法による微粒子（20μm以下）除去，乾燥

(6) 封入剤（オイキット）中に分散，プレパラート作成

(7) 検鏡・計数

同定は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパール（以下、プラント・オパールと略す）をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が300以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１ｇ中のプラント・オパール個数を求めた。

4．分析結果

プラント・オパール分析の結果を表１に示す。なお、稲作跡の検証および探査が主目的であるため、同定および定量は、イネ、ヨシ属，タケ亜科，ウシクサ族(ススキやチガヤなどが含まれる)，キビ族(ヒエなどが含まれる）の主要な５分類群に限定した。巻末に各分類群の顕微鏡写真を示す。

5．考　察

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料１ｇあたりおよそ5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断してい

る。また、その層にプラント・オパール密度のピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくくなり、その層で稲作が行われていた可能性はより確実なものとなる。以上の判断基準にもとづいて、稲作の可能性について検討を行った。

A－3区では、As—B 層直下の畦畔状遺構から採取されたNo.1～No.4の4試料について分析を行った。その結果、これらのすべてからイネのプラント・オパールが検出された。プラント・オパール密度は平均5,800個／gと高い値である。したがって、同遺構で稲作が行われていた可能性は高いと考えられる。

No.5地点およびNo.6地点でも、As—B 層直下の検出面から採取された試料について分析を行った。その結果、いずれの試料からもイネのプラント・オパールが検出された。このうち、No.5地点では密度が13,800個／gと非常に高い値である。したがって、同地点で稲作が行われていた可能性は極めて高いと考えられる。なお、No.6地点では密度が900個／gと低い値であることから、稲作の可能性は考えられるものの、他所からの混入の危険性も否定できない。

6．まとめ

以上のように、A－3区で検出された As—B 層直下の畦畔状遺構では、イネのプラント・オパールが多量に検出され、同遺構で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、No.5地点の As—B 直下層でも稲作の可能性が認められた。

【参考文献】

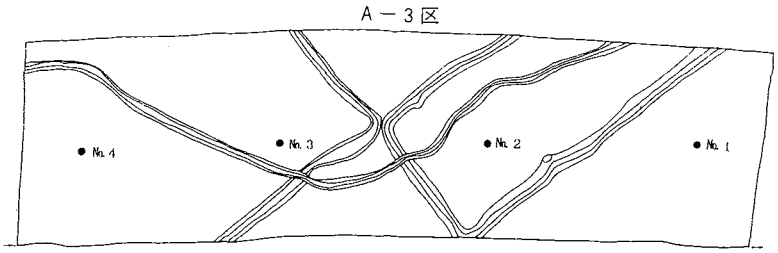
杉山真二・藤原宏志．1987．川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析．赤山—古環境編—．川口市遺跡調査会報告，第10集，281—298．

藤原宏志．1976．プラント・オパールの分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—．考古学と自然科学，9：15—29．

藤原宏志．1979．プラント・オパール分析法の基礎的研究(3)—福岡・板付遺跡（夜臼式）水田および群馬・日高遺跡（弥生時代）水田におけるイネ（O.sativa L.）生産総量の推定—．考古学と自然科学，12：29—41．

藤原宏志・杉山真二．1984．プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—．考古学と自然科学，17：73—85．

第１図　試料採取地点



第２図　試料採取地点

安中市、九十九川沿岸遺跡群

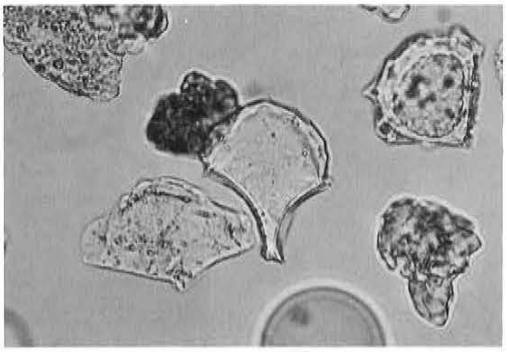
A－３区　As－B 下遺構検出面

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個／g	(籾総量) t／10 a	ヨシ属 個／g	タケ亜科 個／g	ウシクサ族 個／g	キビ族 個／g
No. 1	—	—	1.14	6,900	—	900	12,900	4,900	0
No. 2	—	—	1.00	4,200	—	800	12,700	3,300	0
No. 3	—	—	0.97	6,300	—	900	10,800	4,500	0
No. 4	—	—	0.95	5,600	—	1,800	4,700	4,700	0

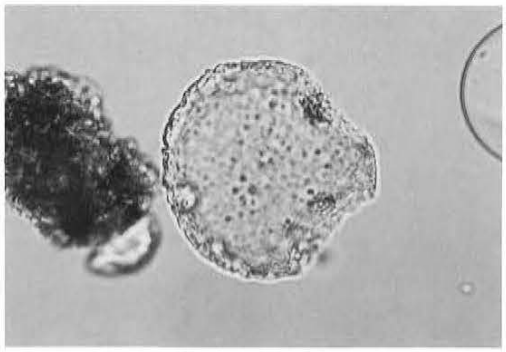
As－B 下遺構検出面

試料名	深さ cm	層厚 cm	仮比重	イネ 個／g	(籾総量) t／10 a	ヨシ属 個／g	タケ亜科 個／g	ウシクサ族 個／g	キビ族 個／g
No. 5	—	—	0.87	13,800	—	1,900	23,600	6,900	0
No. 6	—	—	0.80	900	—	7,200	21,700	3,600	0

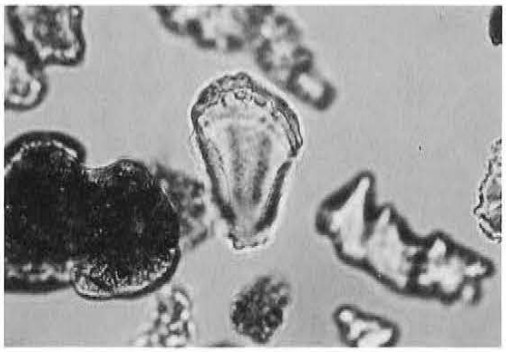
第１表　プラント・オパール分析結果



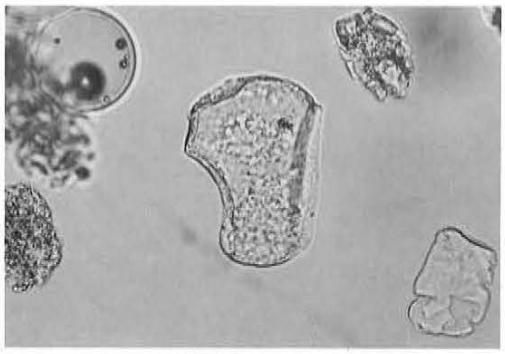
No.1　イネ



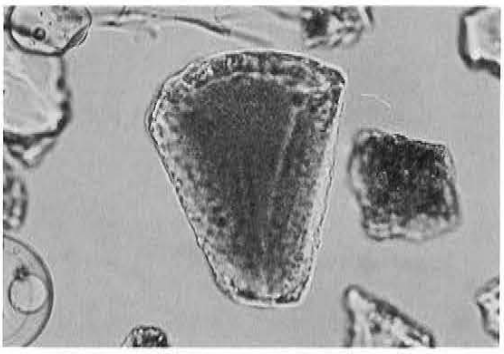
No.2　ヨシ属



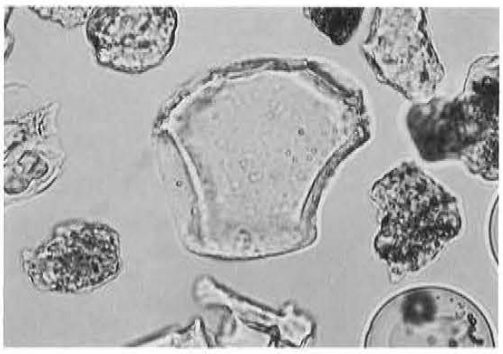
No.3　タケ亜科



No.4　不明（ウシクサ族類似）



No.5　不明(ウシクサ族類似，大型)



No.6　不明

プラント・オパールの顕微鏡写真

九十九川沿岸遺跡群 2

—平成 2 年度県営圃場整備事業九十九川
地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発　行　日　平成 4 年 3 月31日
編集・発行　安 中 市 教 育 委 員 会
群馬県安中市安中 1 丁目23—13
印　　刷　朝日印刷工業株式会社